

日比谷公園120周年 野音100周年

1903(明治36)年6月1日。林学博士の本多静六(1866-1952)によって日本で初めての“西洋風”の公園が誕生しました。文明開化の進む中で、洋花、洋楽、洋食など五感で西洋文化に触れることのできる開かれた公園でした。公園の開園から20年後、1923(大正12)年には音楽はもちろんのこと様々な催しが行える「日比谷公園大音楽堂」(通称・野音)がオープンします。戦争や地震など様々な歴史を乗り越え120年たった今でも都会のオアシスとして人々に親しまれている日比谷公園、キャロルやキャンディーズの解散、多くのアーティストによる伝説的ライブが生まれ“音楽の聖地”といわれる日比谷野音。日比谷を象徴する場所は節目の年を迎え新しい未来へと踏み出します。



提供：日比谷公園大音楽堂管理事務所

1 NEWS 日比谷公園が生まれ変わります!

【日比谷公園再生整備計画】

日比谷公園は開園130年となる2033(令和15)年を目標に公園全体が再整備されます。改修工事は本年の秋ごろより段階的に進められる予定となり、日比谷野音も2024(令和6)年度以降に解体され新しい野音へと生まれ変わります。

※日比谷公園再生整備計画は、東京都建設局ホームページ「日比谷公園の再生整備について」で公開されています。

2 NEWS 祝・日比谷野音100周年記念事業

今年100周年を迎える日比谷野音。4月15日に行われたオープニングセレモニーを皮切りに11月までコンサートやイベントの様々な記念行事が行われます。ステージに立つアーティストにとっても、客席から歓声を届ける人々たちにとっても特別なイベントとなることでしょう。

「フリーでボーダーレス」な音楽体験
日比谷音楽祭2023

2019年から始まった日比谷音楽祭は今年、日比谷野音100周年記念事業の1つとして開催されます。「フリーでボーダーレス」な音楽イベントをコンセプトに、日比谷公園全体を使って、世代やジャンルを超えて質の高い音楽を無料で誰でも楽しめる音楽イベントです。

calendar 開館時間：平日10時～22時 ■土曜10時～19時 ■日祝10時～17時 ■休館日

2023年 6月							2023年 7月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	2	3	4	5	6	7	8
4	5	6	7	8	9	10	9	10	11	12	13	14	15
11	12	13	14	15	16	17	16	17	18	19	20	21	22
18	19	20	21	22	23	24	23/30	24/31	25	26	27	28	29
25	26	27	28	29	30								



access

〔都営地下鉄〕
●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分
〔東京メトロ〕
●丸ノ内線
●日比谷線
「霞ヶ関駅」B2出口徒歩3分
●千代田線
「霞ヶ関駅」C4出口徒歩3分
JR「新橋駅」徒歩10分

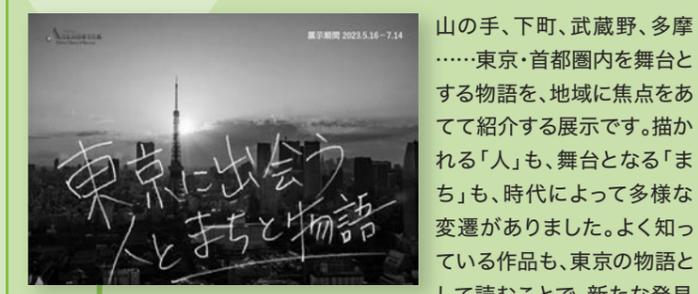
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報は、ホームページ等をご確認ください。

展示 PICK UP

2Fパープルゾーン【江戸・東京】の本を集めたゾーン ~7/14(金)

東京に出会う 人とまちと物語



山の手、下町、武蔵野、多摩……東京・首都圏内を舞台とする物語を、地域に焦点をあてて紹介する展示です。描かれる「人」も、舞台となる「まち」も、時代によって多様な変遷がありました。よく知っている作品も、東京の物語として読むことで、新たな発見があるかもしれません。

『パーク・ライフ』
●吉田 修一 著
●文藝春秋
●2002年



「東京」との新たな出会いがあるかも? 人とまちに着目した物語を集めました。

じっくり読みたい

◎文学全集・シリーズ本3選

雨の多い季節、外出をためらうような日には室内でゆっくりと読書をするのはいかがでしょうか。当館所蔵の文学全集・シリーズ本の中からおすすめします。

『宮沢賢治 コレクション』全10巻

- 宮沢 賢治 著
- 筑摩書房
- 2016～2018年

『源氏物語 A・ウェイリー版』全4巻

- 紫式部 著
- アーサー・ウェイリー 英訳
- 穂矢 まりえ、森山 恵 日本語訳
- 左右社
- 2017～2019年

『シェイクスピア 全集』全33巻

- シェイクスピア 著
- 松岡 和子 訳
- ちくま文庫
- 1996～2021年

日比谷音楽祭2023×日比谷図書文化館 本と音楽と

1 【図書展示】2F エレベーターホール ~6/30(金)まで

今年も6/2(金)・6/3(土)・6/4(日)に日比谷公園で開催される「日比谷音楽祭2023」とのコラボ展示を行っています。日比谷音楽祭にゆかりのあるアーティストの方々へ思い入れのある本を選んでいただき、推薦文を添えてもらいました。

※全ての本が展示されているわけではありませんが、選んでいただいた本は全てご紹介しています。



2 【図書展示】2F パープルゾーン 三角台 ~6/30(金)まで

三角台では音楽全般に関する本を幅広く展示しています。皆さんはどんな音楽を聴くのがお好きでしょうか。こちらも是非手に取ってください。



3 【ライブラリーコンサート】3F 閲覧スペース 6/3(土)開催

馬頭琴奏者であるアスハンさんのスペシャルミニコンサートを行います。館では初となる閲覧スペースでの生演奏です。図書フロアで奏でられる心地よい馬頭琴の音色をぜひお楽しみください。

- 日時：6月3日(土) 11:30～11:45/13:00～13:15
- 場所：3階閲覧スペース*
- ※10:00～14:30は座席等が特別仕様となっています。また、演奏中は館内に音が響きますので、ご了承ください。
- 鑑賞無料・予約不要

6月の展示情報

※展示情報は変更する場合がございます。

3F プルプルゾーン 『映画的本棚-CINEMATIC SHELF-』(～6/16)

映画は昔も今も特別な娯楽です。新しいメディアが次々に登場し娯楽が多様化する今、映画の魅力に注目が集まっています。映画好きもそうでない人も、この展示をきっかけにお気に入りの一本を見つけてください。

3F グリーンゾーン 『Sleeping Books～あなたの手で目覚める一冊～』(～9/15) NEW!

日比谷図書文化館の蔵書のうち、専門性の高さや時流など様々な要因で本棚に隠れている本たち。今回はそんな本の中から、開館当初に出版されたものに焦点を当てて紹介します。眠っている本を発掘すると同時に、再び手に取ってもらうきっかけとなる展示です。

6・7月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

6/8 (木) **江戸歴史講座 第77回**
家康がみた江戸の城と町
 講師：齋藤 慎一(江戸東京たてもの園専門調査員(学芸員))

家康と私たちの住む東京はとりわけ深い関係にあるのは間違いありません。通説としては寒村だったと説明されていました。ところが、近年では大きく見直されています。家康を迎えた江戸はどのような場・空間であったのでしょうか。地図を片手に歩くように一緒に考えてみましょう。

■日時：6月8日(木)19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：200名 ■参加費：1000円(千代田区民500円)



江戸城本丸富士見三重櫓

6/22 (木) **第19回ジャパンレレッジ講演会**
辞書は用例がいのち
～辞書編集者を悩ませる、日本語 ⑩
 講師：神永 暁(辞書編集者)

辞書編集者 神永さんによる講演会。10回目となる今回のテーマは、国語辞典の「用例」をクローズアップ。国語辞典史を語るうえで外せない、用例採取の名手である3人の国語辞典編集者の話を皮切りに、用例を読むとどんな気づきがあるのかを国語辞典最高峰といわれる『日本国語大辞典 第二版』の編集を担当した神永さんが伝えます。(主催：株式会社 ネットアドバンス、共催：日比谷図書文化館)

■日時：6月22日(木)19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：200名 ■参加費：1000円



6/29 (木)他 **名画のなかの“恋人たち”**
-AI時代に問われる絵画の意義(全3回)
 講師：永井 龍之介(永井画廊代表取締役)

昨年アメリカの絵画コンテストで「AI絵画」が大賞を受賞し、“アートに作者は不要か”などと話題になっています。恋愛もできない、友情も生じない、既存概念だらけのAIに本物の絵画を描けるはずありません。AI時代を迎え、改めて絵画の意義が問われています。愛することが生きることであり、生きることが絵を描くことにつながったクリムトとムンク、後に“世界の美術界を征服した”と評されるまでになったモネとルノワール、友情なくして名画が生まれなかったゴーギャンとゴッホの“人間ドラマ”など、巨匠たちのエピソードを通して、絵画とは何かに迫ります。

■日時：第1回 6月29日(木)19:00～20:30(18:30開場)
 「クリムトとムンクー名画誕生の裏に“女あり”」
 第2回 7月27日(木)19:00～20:30(18:30開場)
 「モネとルノワールー既存概念をぶち壊せ」
 第3回 9月28日(木)19:00～20:30(18:30開場)
 「ゴッホとゴーギャンー男同士の友情なくして名画は生まれなかった」

■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：各回200名 ■参加費：各回1000円
 ※各回のお申し込みが可能です。



グスタフ・クリムト
《接吻》
1907-1908年

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

6/30 (金) **横断的な読書環境と社会のアーカイブ**
ー図書館・書店・読者ー
 講師：柴野 京子(上智大学文学部新聞学科教授)

本を巡るデジタル化は書物だけでなくプラットフォームや流通にも影響を与えました。アナログとデジタルという単純比較では捉えることのできない共通の社会変革によって見えてきた互いの役割やありかた、それぞれのアクターに求められていることを一緒に考えていきます。

■日時：6月30日(金)19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：200名 ■参加費：1000円



7/5 (水) **マンガの“いま”を考える①**
デジタルデバイス時代のマンガ表現・マンガビジネス
 講師：藤本 由香里(明治大学国際日本学部教授)

スマホ向けアプリで配信される縦スクロール漫画は、2000年代の初めに韓国で生まれ、徐々に進化をとげてきました。本講義では「縦スクロール漫画」がなぜ近年になって注目されるようになったのか、その過程をたどるとともに、マンガ表現やビジネスモデルの変化に着目し、解説します。

■日時：7月5日(水)19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：200名 ■参加費：1000円



7/7 (金) **千代田区内ミュージアム連携企画 展覧会への入口講座 Vol.36**
かいのしょうただおと
甲斐荘楠音の知られざる全貌 ー絵画・演劇・映画をまたにかけた「京都の異才」を回顧する
 講師：若山 満大(東京ステーションギャラリー学芸員)

甲斐荘楠音(1894-1978)は、大正期から昭和戦前期にかけて革新的な日本画を世に問うた「京都画壇の異才」として知られます。しかし、甲斐荘の優れた仕事は絵画だけではなく、今回の講座では、映画や演劇の世界にも越境した甲斐荘の知られざる全貌を紹介します。

■日時：7月7日(金)14:00～15:30(13:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：200名 ■参加費：1000円(千代田区民500円)



甲斐荘楠音《春》1929年、メトロポリタン美術館、ニューヨーク
 Purchase, Brooke Russell Astor Bequest and Mary Livingston Griggs and Mary Griggs Burke Foundation Fund, 2019 / 2019.366

7/13 (木)他 **日比谷オペラ塾**
オペラ・あ・ら・かると(全3回)
 オペラ初心者から愛好者までが楽しめる多彩なオペラの魅力を縦横に紹介します。全3回のうち、7月はベルカント全盛期に数々の伝説的なプリマ・ドンナを生み出した時代や、当時の名歌手の系譜について『プリマ・ドンナの時代』のご著者でもある水谷彰良さんがお話しします。

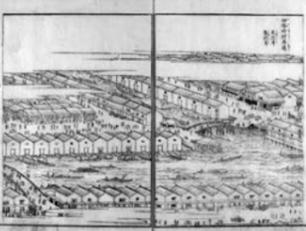
■日時：7月13日(木)19:00～20:30(18:30開場)
 「プリマ・ドンナの時代」講師：水谷 彰良(日本ロッシーニ協会会長)
 8月10日(木)19:00～20:30(18:30開場)
 「ワーグナーのヒロインたち」講師：堀内 修(音楽評論家)
 9月21日(木)19:00～20:30(18:30開場)
 「ヴェネツィアのワーグナーとヴェルディ」講師：新井 巖(フェニーチェ劇場友の会代表)

■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：各回60名 ■参加費：各回1500円 ※各回のお申し込みが可能です。

7/21 (金) **江戸の繁栄を支えた海運と河岸**
ー古地図で見る湊の経済活動ー
 講師：鈴木 浩三(経済史家)

天下を統一した徳川家康は、諸大名に江戸の城と街づくり命じました。それは、海運によって全国から江戸に物資が集まる構造をつくり、その後の江戸の繁栄の基盤となりました。本講座では、港湾施設であり、かつ、モノの価値を創造する場でもあった河岸(かし)など、江戸の湊の経済活動についてお話しします。

■日時：7月21日(金)19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：200名 ■参加費：1000円(千代田区民・学生500円)
 ※ 学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。



伊勢町河岸通 米河岸 塩河岸
 (斎藤月岑編 長谷川雪旦画 『江戸名所図会』/ 東都書舗 /1836年)

7/28 (金) **境界 戦争体験者の証言**
 登壇者：大島 満吉、吉田 由美子

戦後78年が経過し、戦争体験者から直接、戦争の悲惨さを聴く機会が減っています。戦前、戦中、戦後の境界とは何なのか、生と死の境界線をさまよった、大島氏と吉田氏が戦争の悲劇を語り尽くします。今だから聞いておくべき魂をゆさぶる証言です。

■日時：7月28日(金)14:00～15:30(13:30開場)
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
 ■定員：60名 ■参加費：1000円(学生500円)
 ※ 学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。



大島満吉



吉田由美子

7/31 (月) **作家・吉村昭の使命**
 講師：吉村 司(プロジェクトアドバイザー)

この夏、小説『戦艦武蔵』が82刷となる。今でも増刷を繰り返すこのヒット作は父・吉村昭を純文学路線から歴史小説路線に転換させたきっかけとなった。父の命日である7月31日。吉村昭という作家はどのような志で執筆していたのか？またどのような父親だったかを語る。

■日時：7月31日(月)19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：200名 ■参加費：1000円



From Chiyoda Public Library 【千代田区立図書館からのお知らせ】

【明治大学 米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館共催企画展示】

ちよだ“縁”のマンガたち

明治大学の2つのマンガ専門図書館(米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館)のコレクションを中心に、千代田区の街や名所などが登場するマンガをパネルで紹介するとともに、マンガや関連本約200冊を展示・貸し出します。(一部、貸出不可)マンガで千代田区を知ってみませんか。

会 期：開催中～7月22日(土) ※5月28日(日)、6月25日(日)は休館
 場 所：千代田図書館9階 展示ウォール



古文書塾てらこや本講座 開講

古文書専門塾として、初心者から経験者まで楽しみながら学んでいただける「古文書塾てらこや」。多種多様な講座を開催します。



特別研究室企画展示

6月18日(日)まで

100年後も手に取れる本に

～内田嘉吉文庫修復報告2023～

2022年度、内田嘉吉文庫をはじめとする17点の所蔵資料を修復しました。昨年開業150周年を迎えた日本鉄道史関連本や美しい図版が収められた大型の洋書、関東大震災の記録など様々な種類の資料が安心して手に取れるよう修復されました。書籍修復家による創意工夫を凝らした修復過程の記録や修復された資料の展示を是非ご覧ください。 破損前の背表紙を復元した『日本鉄道史 中篇』→



- 主な展示図書
『日本石油史』(1917年)、『日本鉄道史 上・中・下』(1921年)、『鉄道一瞥』(1921年)、『震災画報』(1923-24年) ほか
- 開室時間：平日10:00～20:00、土曜10:00～18:00、日曜・祝日10:00～16:00 ● 会場：4階特別研究室

関連講座 **資料を活用するための修復**
ー合冊製本から分冊製本へー
6/17 (土) 講師：近藤 理恵(製本・書籍修復家)

雑誌や書籍を一冊にまとめて資料を保存する「合冊製本」は開きにくい、かなりの重量があるなど、必ずしも扱いやすいものではありません。そこで、特別研究室では2020年度より合冊製本を「分冊製本」に戻す修復を試みています。本講座では特別研究室所蔵資料の分冊製本による修復を手がけた講師が、より扱いやすく、活用しやすくするための修復の作業過程とその意義についてお話しします。

■日時：6月17日(土)14:00～15:30(13:30開場)
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員：60名 ■参加費：1000円(千代田区民・学生500円) ※ 学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。